

R i s a H o k a m u r a

外村理紗

2020.2.21

ヴァイオリン・リサイタル

シンフォニア

ザ・シンフォニーホールで躍動する若き俊英

elegy
エレジー

横坂源

2020.3.14

チェロ・リサイタル

G e n Y o k o s a k a

Close Up

ザ・シンフォニーホール カウントダウン
&ニューイヤークンサート
キエフ国立フィルハーモニー交響楽団

日本センチュリー×ザ・シンフォニーホール Vol.7
3B バッハ、ベートーヴェン、ブラームス

富田一樹 バッハ名曲決定版!!

ほか

- 02 日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール Vol.7
3B バッハ×ベートーヴェン×ブラームス
- 04 ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2019-2020&ニューイヤーコンサート 2020
- 06 3大協奏曲 2020 ~次世代を担う未来の巨匠たち~
- 08 チョン・キョンファ ヴァイオリン リサイタル 2019
- 09 大植英次×「英雄の生涯」
- 10 elegyエレジー 横坂源 チェロ・リサイタル
- 11 外村理紗 ヴァイオリン・リサイタル
- 12 富田一樹 バッハ名曲決定版
- 13 プロジェクション・マッピング×パイプオルガン GIFT ~クリスマス・キャロル2019~
ザ・シンフォニーホール クリスマス オルガンコンサート 2019
- 14 川井郁子 シンフォニック コンサート ~情熱の名曲たち~
荒庸子 チェロ・リサイタル 2020 想い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲SELECTION VOL.6
- 15 Noel クリスマス・リサイタル ソプラノ 小林沙羅
- 16 三浦一馬(バンドネオン)東京グランド・ソロイスト in 大阪
- 17 上原ひろみ JAPAN TOUR 2019 "SPECTRUM"
- 18 東京佼成ウインドオーケストラ 第4回大阪定期演奏会
クラシック×ジャズ 2020 細川千尋 プレイス・ビル・エヴァンス ラヴェル・ジャズ
- 19 和太鼓松村組 春祭 2020 ~春光令月に舞う花~
長富 彩 ピアノ・リサイタル Vol.4「リスト、超絶名曲選」
- 20 大阪フィル×ザ・シンフォニーホール <名曲シリーズ> ソワレ・シンフォニー Vol.14
大阪交響楽団 0歳児からの「光と映像で楽しむオーケストラ」Vol.16
『まるごと“くるみ割り人形”』クララのクリスマス
- 21 オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ 第127回 定期演奏会
オラトリオ「ヤマトタケル」
- 22 ABCテレビ主催公演・イベント情報
- 26 日本センチュリー交響楽団
- 28 welcome more musicians! 音楽を愛する団体が集うザ・シンフォニーホール
- 29 ホールトピックス
- 30 堀江政生のシンフォニア・アワーVol.35
- 31 Concert Calender 2019.9~11

9月のSinfonia会員先行予約

- 先行予約: 9月19日(木) 10:00AM~
※Sinfonia会員先行予約期間中は、電話・WEBのみのご予約となります。
※ザ・シンフォニー チケットセンター窓口、館内プレイガイドでの販売はございません。
※Sinfonia会員先行期間中にご予約されたチケットは、すべて郵送でのお届けとなります。
●電話: ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
(10:00~18:00 火曜定休)
●WEB: <http://www.symphonyhall.jp/>

登録費
年会費
無料!

シンフォニア会員登録方法

シンフォニア会員にご登録いただきますと、先行予約のご利用、シンフォニアのお届け、メールマガジンの受け取り等お得な特典をご利用いただけます。ぜひご登録ください!

▼WEBサイトからのご登録

ザ・シンフォニーホール ホームページ
<http://www.symphonyhall.jp/> からご登録下さい。

▼ハガキでのご登録

定型ハガキに下記の情報を記載いただき、62円切手を貼付の上、ポストに投函ください。

【定型ハガキ裏】1.お名前(フリガナ付き)、2.性別、3.郵便番号、4.住所、5.電話番号、6.メールアドレス(メールマガジン受取りの場合)

【定型ハガキ表】531-8501 大阪市北区大淀南2丁目3-3 ザ・シンフォニーホール「シンフォニア」係
※手続を完了後、約2週間で会員番号のお知らせと、シンフォニア最新号をお送り致します。

※携帯端末のメールアドレスをご登録いただく場合、受信設定をしている方はメールが受信できない場合がございます。[@symphonyhall.jp]をドメイン指定受信して下さい。指定方法はご利用の携帯電話会社にお問い合わせください。

【お客様の個人情報の取り扱いについて】株式会社ザ・シンフォニーホールでは、次に掲げた内容にしたがって、個人情報の保護に努めています。○お客様からご提供いただいた個人情報については、個人情報に関する法令、規約に則り適正に管理いたします。○お客様からいただいた個人情報、以下の目的のために使用し、それ以外には一切使用いたしません。(1)シンフォニア会員様への情報誌「シンフォニア」および関連する印刷物の発送(2)ザ・シンフォニーホールで開催する催事をご案内する印刷物の発送(3)ホールなど施設の利用に関するご案内、ご連絡(4)ザ・シンフォニーホールの事業、サービスの開発・改善を目的とした調査・研究のためのアンケートの送付・分析・データ集積(5)チケット予約販売に伴う、ご本人確認およびご連絡(6)株式会社ザ・シンフォニーホールに関するご案内の発送○個人情報の提供はご自身の意思でご本人様が行うものとし、○お客様の個人情報、適正かつ迅速に処理するため、その作業を外部の企業に委託して行うことがあります。その場合、委託先において個人情報に安全に管理されるよう適切に監督します。

※記載内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。

令和元年



発売中

【鶴組司会】八塚彩美(朝日放送テレビアナウンサー)
【亀組司会】堀江政生(朝日放送テレビアナウンサー)

2019.12/29(日) 3:00PM
S 6,500円 A 5,500円 B 4,500円(税別)
※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問合せください。

【ご予約・お問合せ】ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333
【主催】オールスター関西オペラ歌合戦実行委員会

年越しスペシャル オールスター

関西オペラ歌合戦

必見の

名曲対決!!

令和元年を祝してさらにパワーアップ!

25人の歌手が豪華なステージを繰り広げる!

【令和元年】。新時代を祝して、昨年大好評を博した「関西オペラ歌合戦」がさらにパワーアップして生まれ変わり、今年の年の瀬に開催することが決定!

コンサート、出演者、お客様。新しい時代に、すべてへ「長寿と繁栄」の願いを込めて開催する今年は、そのシンボルである“鶴亀”にならない、「鶴組」と「亀組」に分かれて実力派歌手がステージを華やかに彩ります。

三重唱、四重唱、男女混合重唱が組まれるなど豪華なプログラムもお楽しみ!

鶴か亀か、勝敗の行方を決めるのも客席のお客様です! 夢の対決をお見逃しなく!!



【指揮】鈴木恵里奈



大阪交響楽団

鶴組



斉藤言子(ソプラノ)
ヴェルディ:「ノルマ」より
「清らかな女神よ」



尾崎比佐子(ソプラノ)
ヴェルディ:「ドン・カルロ」より
「世のむなしさを知る神よ」



木澤佐江子(ソプラノ)
ビゼー:「カルメン」より
「何を恐れることがありません」



林 佑子(ソプラノ)
ウェーバー:「魔弾の射手」より
「曇った瞳は」



荒田祐子(メゾソプラノ)
トマ:「ミニョン」より
「君知るや南の国」



日下部祐子(ソプラノ)
クノー:「ロミオとジュリエット」
より「私は夢に生きたい」



古瀬まきを(ソプラノ)
J.シュトラウスII世:「こうもり」より
「田舎娘を演じるなら」



白石優子(ソプラノ)



植田加奈子(ソプラノ)
ヴェルディ:「ファルスタッフ」より「手紙の四重唱」



西原綾子(メゾソプラノ)



名島嘉津栄(メゾソプラノ)



祝令和男女混合重唱 / 松浦綾子(ソプラノ)、福岡 聡(バリトン)
—— モーツァルト:「ドン・ジョヴァンニ」より「お手をどうぞ」 ——



亀組



田中 勉(バリトン)
ヴェルディ:「仮面舞踏会」より
「お前こそ、心を汚すもの」



田中由也(バリトン)
ヴェルディ:「リゴレット」より
「悪魔め鬼め」



井上敏典(バリトン)
ヴェルディ:「椿姫」より
「フロヴァンスの海と陸」



西尾岳史(バリトン)
プッチーニ:「エドガール」より
「この愛は僕の恥」



小餅谷哲男(テノール)
モニョシュ:「ハルカ」より
「風はモミの木を抜けて泣き」



樹 貴志(バリトン)
ジョルダーノ:「アンドレア・
シェニエ」より「祖国の敵」



二塚直紀(テノール)
プッチーニ:「トゥーランドット」より
「誰も寝てはならぬ」



清原邦仁(テノール)
—— モーツァルト:「コジ・ファン・トゥッテ」より「女の貞操は美しいセレナーデを」 ——



大谷圭介(バリトン)



湯浅貴斗(テノール)



祝令和男女混合重唱 / 森井美貴(ソプラノ) 森 寿美(バリトン)
—— レハール:「メリー・ウィドウ」より「唇は黙して」 ——



指揮:飯森範親



©s.yamamoto

ヴァイオリン:郷古 廉



©Hisao Suzuki

ピアノ:関本昌平



3B

日本センチュリー交響楽団×
ザ・シンフォニーホール Vol.7

BACH×BEETHOVEN×BRAHMS

バッハ×ベートーヴェン×ブラームス

郷古 廉インタビュー

日本センチュリー交響楽団とザ・シンフォニーホールが届けるシリーズ・コンサート。
2020年の第一弾のテーマは“3B”! 3つのコンチェルトが一度に聴ける贅沢なコンサートに向けて、
今号では郷古 廉のインタビューをお届けする。

Interview

新しい気持ちで楽譜を読み、
作品と向き合ってみる

バッハ、ベートーヴェン、ブラームスというドイツの偉大なる作曲家たちが書いた3つの協奏曲が演奏される「日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホールVol.7」。バッハとベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲で登場する郷古 廉は、1993年、宮城県生まれの気鋭ヴァイオリニスト。マスターピースの一つであるベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲は、17歳で初めて弾いて以来、最もオーケストラと共演した回数が多く作品だという。

「とはいえ、今度のコンサートでは約2年ぶりにこの曲に取り組むことになるので、また新しい気持ちで楽譜を読み、作品と向き合ってみようと思います。こうして定期的に弾き続けている作品は、自分の変化がよく見える、まるで鏡のような存在です」

この春、2017年から3年にわたって行ったヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を終えたことで、よりベートーヴェンの人物像が見えてきたと感じているようだ。

「ベートーヴェンは確かに超人的な才能の持ち主ですが、一方で、普通の感覚を持った一人の人間でもあったと実感するようになりました。頑固で、コンプレックスも

たくさんあって、ある意味すごく強いんだけど、その強さは弱さから生まれたものなのだろうと感じます。本当はロマンティストなのに、それを人に知られたくなかった。気性が激しく、幸せや愛情を求めているのに、自分からそれを遠ざけて、何かを守っていたのではないのでしょうか。そう思うと、彼があのような、次々と全く違うキャラクターが現れる音楽を書いたということが、腑に落ちるのです」

始めから終わりまで美しい音楽が流れるヴァイオリン協奏曲も、「単なる牧歌的な平和ではなく、精神的な苦痛を乗り越えた上にある、特別な種類の平和」に満ちた作品だと、改めて感じるようになったと郷古は話す。

「苦しみの果てにある、穏やかさ。そういうものに、僕自身とても共感するところがあります。ほんの少しの悲しみが隠された明るさというものは、音楽にとっても大切だし、これを表現することとはレベルの高い作業だと思っています。そんな微かな苦しみは、たとえ聴いている方にはつきり伝わらなくても、意識の深いところで感じてもらえるようであつたらいいなと思います」

小学校の頃から詩を書いていた。美しいものに敏感だった



©Hisao Suzuki

郷古はピアノを習っていた姉の発表会でヴァイオリンに出会い、習い始めると、13歳の頃にはユディ・メニューイン青少年国際ヴァイオリンコンクールジュニア部門に史上最年少で優勝した。少年時代は、とても多感だったという。

「体を動かして遊ぶことも多かったですが、小学校の1、2年生ぐらいの頃から詩も書いていました。空や自然の風景など、美しいものに敏感だったようです」

しかし「今でもヴァイオリンは自分のやるべき唯一のことだとは思っていない」というから驚く。

「ずっと長く続けてきて、楽器の中で自分が一番うまく弾けるのがヴァイオリンだから、何かを表現するための手段として弾いているという感覚ですね。子供の頃、あまり練習はしませんでした、弾くことの喜びは大きかったと思います。続けていくうち、自分は

同じ年の子たちのなかで少しうまく弾けるのかもしれないと感じる場面が出てくるわけですが、両親は、そういうときにも奢ることがないよう厳しくしてくれました。そのおかげで現実主義的な考えになったのかもしれませんが（笑）、今は感謝しています」

ドイツ音楽史を知ることができる。そこを意識して聴くとおもしろい

郷古にとって、ザ・シンフォニーホールは好きな会場のひとつだという。

「シックな色合いや歴史ある雰囲気が入っています。ステージが低く、客席が近くに感じられて、さらに音響がいいので弾いていて気持ちのいいホールです」

そんな会場で、飯森範親指揮、日本センチュリー交響楽団と豪華ソリストの共演により、「3B」のコンチエルトを一度に聴くことができる。この公演プログラムの魅力は、どんなところにあるだろうか。

「バッハはベートーヴェンに大きな影響を与えました。そして、そのベートーヴェンの存在に強いプレッシャーを感じながら、ブラームスは作品を生み続けました。バッハを原点に激変したドイツ音楽史を、ごく一部ではあるけれど知ることができるプログラム

[指揮]飯森範親 [ヴァイオリン]郷古 廉、松浦奈々
[ピアノ]関本昌平 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団

J.S.バッハ:2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043 (Vn:郷古 廉、松浦奈々) / ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.61 (Vn:郷古 廉) / ブラームス:ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15 (Pf:関本昌平)

2020.2/24 (月・祝) 2:00PM

S 5,500円 A 4,500円 B 3,500円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591

[主催]公益財団法人日本センチュリー交響楽団 / ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/19(木) 一般発売:10/5(土)

です。単に有名な3Bだというのではなく、そこを意識して聴くとおもしろいのではないのでしょうか」

ところで、当日の「ブラームス」を担当するピアノリストの関本昌平に、郷古から何か質問してみたいことは？

「ブラームスのピアノ協奏曲第1番の第2楽章を弾いているときは、どういう気持ちになるのか、聞いてみたいです」

この問いかけへの回答は、次号の関本昌平のインタビューで紹介予定。お楽しみに！

(取材・文 高坂はる香)

日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホール Vol.6

ラフマニノフ&シベリウス

2つの第2番

チケット
残り
わずか!!

不動の人気を誇る2つの第2番

「ラフマニノフ」、「シベリウス」の楽曲の中でも得に人気のある2つの第2番。

雄大な景色を感じさせる最強のカップリングで、大いに盛り上がること必至！

チケットは好評発売中なので、お早めに！

日本センチュリー交響楽団



指揮 飯森範親



ピアノ 上原彩子

[指揮]飯森範親 [ピアノ]上原彩子
[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op.18
シベリウス:交響曲 第2番 二長調 op.43

2019.11/3 (日・祝) 2:00PM

S 5,500円 A 4,500円 B 3,500円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]センチュリー・チケットサービス

06-6868-0591

[主催]公益財団法人日本センチュリー交響楽団 / ザ・シンフォニーホール

ザ・シンフォニーホール カウントダウン & 2019→2020 ニューイヤーコンサート

©Masashige Ogata

カウントダウンは「展覧会の絵」！
欧米、本場さながらのステージ！



イワナ・ブリシュ
(ソプラノ)



大谷康子
(ヴァイオリン)



アンドリー・マスリャコフ
(バリトン)



オレクサンドル・チュフピロ
(テノール)



オリガ・タブリナ
(アルト)



ニコライ・ジャージュラ
(指揮)

新たな時代「令和」となって、初めて迎える大晦日と元旦。心地よいハーマニーと名曲、そして、大切な人と共に過ごしたい――。

「欧米のように、関西でも気軽にホンモノのエンターテインメントを楽しみながら、極上で贅沢な年越しを！」と、ザ・シンフォニーホールが、毎年開いている「カウントダウン & ニューイヤーコンサート」。今年は、東欧の文化大国・ウクライナが誇る、キエフ国立フィルハーモニー交響楽団が登場し、彩り豊かな名曲の花束を届けてくれる。

キエフ国立フィルは1995年、ウクライナの首都キエフで創設。年間50回以上の定期公演のほか、旧ソ連圏や独仏など各国へ客演。ヴァイオリンのギドン・クレイメルら巨匠との共演も数多い。この実力派集団を率いるのが、創設の翌年から音楽監督を務めるニコライ・ジャージュラ。国際的な登竜門で入賞を重ね、タンゲルウッド音楽祭ではバーンスタインらの薫陶も受けた気鋭の名匠だ。

趣向を凝らした内容で毎年、好評を得ている「カウントダウン & ニューイヤーコンサート」。今年は、まず、イワナ・ブリシュ(ソプラノ)、オリガ・タブリナ(アルト)、オレクサンドル・チュフピロ(テノール)、アンドリー・マスリャコフ(バリトン)ら、耳の肥えた現地の聴衆も認めた、4人の実力派歌手をフィーチャーし、誰もが一度は耳にしたはずの、傑作オペラからの数々の名旋律を軸に据える。

令和初の年越し、 新時代への架け橋を飾る キエフ国立フィルハーモニー交響楽団



ザ・シンフォニーホール カウントダウンコンサート 2019-2020

2019.12/31(火) 10:00PM

※18歳未満の方は保護者の同伴が必要です。

ザ・シンフォニーホール ニューイヤーコンサート 2020

2020.1/1(水・祝) 3:00PM

[司会]堀江政生(朝日放送テレビアナウンサー)

■2019.12/31

ビゼー:歌劇「カルメン」より/ブッチーニ:歌劇「トゥーランドット」より/マスネ:タイスの瞑想曲★/サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン★/チャイコフスキー:バレエ音楽「白鳥の湖」より/ワーグナー:楽劇「ワルキューレ」よりワルキューレの騎行/ムソルグスキー:「展覧会の絵」より/J.シュトラウス:ラデツキー行進曲 ほか

■2020.1/1

ヴィヴァルディ:「四季」より春★/サラサーテ:ツィゴイネルワイゼン★/ヴェルディ:歌劇「椿姫」より乾杯の歌/ロッシニ:歌劇「セヴィリアの理髪師」より/チャイコフスキー:「くるみ割り人形」より花のワルツ/J.シュトラウスⅡ世:ポルカ「雷鳴と電光」op.324/ワルツ「美しく青きドナウ」/J.シュトラウス:ラデツキー行進曲 ★=大谷康子(Vn)

[各日] SS 10,000円 S 8,000円 A 6,000円 B 4,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問合せください。

[ご予約・お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中



ホールも鮮やかなお正月モードに

門松、金屏風、樽酒などの装飾も! いつもに増してあてやかな雰囲気!



ステージでは新春の鏡割りも

鏡は円満、開くは末広がりに。素晴らしい1年になるように願って――



終演後には祝い酒をご用意!

最高の音楽を楽しんだ後は、美酒をお楽しみください。

さらに、このキエフ国立フィルハーモニーは、各国の第一線オーケストラと共演を重ねるなど、国際的な活躍を続けるヴァイオリンの名手で、2020年にはデビュー45周年の節目を迎える大谷康子が、ソリストとして登場。やはり、耳なじみのある名旋律の数々を、1708年製の銘器ピエトロ・グアルネリ、艶やかな音色で紡ぐ。そして、2つのステージとも、朝日放送の堀江政生アナウンサーが、ナビゲーターを務める。

大晦日の午後10時からの「カウントダウンコンサート」では、ビゼー「カルメン」から「ハバネラ」やブッチーニ「トゥーランドット」から「誰も寝てはならぬ」ほか、選りすぐりの名アリアの数々を。大谷は、サラサーテ「ツィゴイネルワイゼン」やマスネ「タイスの瞑想曲」など、珠玉のヴァイオリン名曲を披露。カウントダウンは、ムソルグスキー「展覧会の絵」の壮麗なサウンドと共に。そして、J.シュトラウス「ラデツキー行進曲」で、希望に満ちあふれる新年を迎え入れる。

一方、「ニューイヤーコンサート」は、元旦の午後3時開演。大谷のソロによる、ヴィヴァルディ「四季」から「春」、ヴェルディ「椿姫」から「乾杯の歌」、シュトラウス一家によるウィンナ・ワルツやポルカ、さらに、チャイコフスキー「花のワルツ」まで、新年に相応しい、明るい陽光と喜びに溢れる名曲を満載。さながら、音楽のお年玉と言ったところだろうか。

(文 笹田和人)

ピアノ: 小林愛実



©Akira Muto

ヴァイオリン: 川久保賜紀



©Yuji Hori

チェロ: 横坂 源



©ワーナーミュージック・ジャパン

Interview

3大協奏曲 2020

～次世代を担う未来の巨匠たち～

2017年10月14日。ザ・シンフォニーホールの35周年を記念日に誕生した3大協奏曲。

“未来の巨匠”とオーケストラの豪華共演、3つのコンチェルトを一夜にして聴けることで、初回より注目を集め、満員を記録しました。今回は、改めてこのコンサートの見どころをご紹介します。

数珠つなぎの宝石しながらに3人が名を連ねる

ソリストと指揮者とオーケストラが舞台を飾る協奏曲は、コンサートの華にも等しい。その名作が贅沢にも3曲、若きヴィルトゥオーソたちの競演でそろう踏み。今やザ・シンフォニーホールの目玉企画として定着した感のある「3大協奏曲」だ。

そもそのきっかけは2017年10月14日、ザ・シンフォニーホールの開館35周年記念日に開かれた公演だった。これが超満員を記録したのは、まだ記憶に新しい。2019年1月6日の第2回公演を経て、今回が3度目となる。

ソリストたちの顔ぶれは壮観の

一言。ピアノ、ヴァイオリン、チェロの3人が、数珠つなぎの宝石しながらに名を連ねる。次代を担う俊秀たちにスポットをあてるという基本姿勢を貫きながら、1つの演奏会としての「フレッシュ感」を打ち出す企画性を維持している点も見逃せない。

3人にとって2020年、記念すべき発目のコンサート

たとえば第1回から出演を続ける横坂源。2017年の「3大協奏曲」は、めきめき頭角を現していたチェロ界のホープに、ザ・シンフォニーホールの聴衆が接する好機となった。そこで弾いたドヴォルザークは、彼にとっても関西圏で披露した初のコンチェルトだったという。

その横坂とは桐朋音大で学年も近い同窓生にあたるのが、第1回と第2回に出演したピアノの関本昌平。チャイコフスキーにラフマニノフというロシア物の王道路線を手がけた彼は、その余勢を駆るかのごとく、ザ・シンフォニーホールでのリサイタルも成功させている。未来を担う若き巨匠に重要な登場の機会を与え、キャリアのステップアップにまでつながる……。そんな場として、これから「3大協奏曲」は大きな役割を担っていくことだろう。

2020年の独奏陣は、これが

2017.10月14日



[ヴァイオリン]松田理奈 [チェロ]横坂 源 [ピアノ]関本昌平
[指揮]飯森範親 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団
プログラム
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64
ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 op.104
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変口短調 op.23

2019.1月6日



[チェロ]横坂 源 [ヴァイオリン]川久保賜紀 [ピアノ]関本昌平
[指揮]山下一史 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団
プログラム
ハイドン:チェロ協奏曲 第1番 ハ長調 Hob.VIIb:1
チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.35
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 op. 18

初登場となる小林愛実、第2回から続投の川久保賜紀、そして前述の横坂。各人がコンサートへ向けての抱負を以下のように語ってくれた。

小林「2020年を新しい気持ちで迎え、素晴らしい年を始められるように、お客様と一緒に楽しみたいです。シヨパン、ブルッフ、ドヴォルザークと、みんなで一緒にたくさんのお音楽を楽しめたらいいなと思います」

川久保「昨年とはまた違う雰囲気でお届けできるプログラムになっています、全部すごく心にキュンと来る作品です。シヨパンの若き日の初恋の想いそして、ドヴォルザークの第2楽章もすごく感動するところがあると思います。1年の始まりにそういうものを感じられるプログラムなので、皆さんもたぶんキュンとなると思います！そんなワクワクするコンサートなので、私もとても楽しみにしています」

横坂「僕も新年初めてのコンサートになります。3回連続での出演となりますが、3大協奏曲に来てくださる大阪のお客様に、親しみを持っていただけたら嬉しいです。再びドヴォルザークを弾きますが、もちろん演奏も変わります。みなさんと一緒にドヴォルザークの世界を体感できたら嬉しいなと思っています」

「この3大協奏曲は、『コンサートの花束みたい』

彼らをサポートするのが、共演相手をフレンドリーに支える合奏が持ち味の日本センチュリー交響楽団と、合わせ物の巧さでも定評のある指揮者、飯森範親という点も強調しておきたい。ちなみに第1回の「3大協奏曲」の終演後には、ソリストたちが誰からともなく「コンサートの花束みたいだったね」と口をそろえて談笑していたという。そんなステージ、満喫してみませんか。

(文 木幡一誠)

[ピアノ]小林愛実 [ヴァイオリン]川久保賜紀 [チェロ]横坂 源
[指揮]飯森範親 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ショパン:ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11
ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26
ドヴォルザーク:チェロ協奏曲 口短調 op.104、B191

2020.1/5(日) 2:00PM

S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

強靱な精神力、万事を徹底する信念。一流ヴァイオリニストが
全身全霊で届ける、オール・ブラームス プログラム

チョン・キョンファ

ヴァイオリンリサイタル 2019

大きなハートを手で描くのは
ひとつになれたことへの感謝

現代のヴァイオリニストで絶えず進化しているレジェンドはと問えば、ほぼすべての人が、「チョン・キョンファ」と答えるだろう。その彼女が10月にザ・シンフォニーホールに戻ってくる。

コンサートでは必ず聴衆に大きな感動を与えるチョン・キョンファであるが、そのための勉強、精神修養、体力作りにかける熱意は71歳になったという人間にとって想像を絶するものがある。あくまで真摯に作曲家の意図を読み取り、その作曲家(作品)の伝達者の1人であるという態度は完全に貫いているが、作曲家の意図を汲むために自己を追い込む姿勢はす

さまじいものがある。作品の裏に潜むすべてをその時点の自分なりに掘り起こすために、スコア・リレーディングと個人練習を行う。そして考える。そしてまた弾く、のサイクルをひたすら行う。それらの行為は肉体的に非常に高いレベルを維持するためにも役立つが、たとえ長いキャリアの中で何度も弾いた曲であっても、ひとたび次回ステージに載せると決めた曲目なら、再び見つめ直すことは当たり前のことである。

過去、曲目が変更になることがたびたびあったのは、どうしても今の自分では作曲家の意図を汲み取れず、聴衆に対して演奏しては失礼だと思ったからであろう。チョン・キョンファはこのレ

ヴェルの演奏家としては珍しく、他の演奏家の演奏会もたえそれがオーケストラであったりオペラであっても頻繁に通って作曲の全体像をさらに把握しようとしていたり自分の立ち位置を客観的に確認したりする数少ない演奏家であり、それは全世界で聴衆の支持を受けている理由の一つかもしれない。

そして彼女は演奏会を聴衆と共に楽しみたいと思っている。彼女が演奏会の最後のカーテンコールで聴衆に向かって大きなハートを手で描くのは、音楽を通じてそこにいる全員がひとつ(ワンハート)になれたことを喜び、皆と分かち合えた感謝のしるしである。

これまでチョン・キョンファの厳しさを中心に書いてしまった



発売中

[ヴァイオリン]チョン・キョンファ

[ピアノ]ケヴィン・ケナー ※当初の予定よりピアニストが変更になりました。

オール・ブラームス・プログラム:ソナタ 第1番 ト長調 op.78「雨の歌」
／ソナタ 第2番 イ長調op.100／ソナタ 第3番 二短調 op.108

2019.10/4(金) 7:00PM

S 10,000円 A 7,000円 B 5,000円 (税込)

[お問合せ]エス・ビー・エス 06-6204-0412

[主催]エス・ビー・エス／ザ・シンフォニーホール

が、ステージを離れば、話好きな優しいお母さんである。終演後のサイン会が長引くのはそのためである。一人一人の聴衆が今回の演奏会を楽しんで満足してもらえたかを直接確認できるチャンスとして捉えているようである。ソウルの自宅では2匹の家族と同居しており、その小型犬の名前は、オスガヨハネス、メスがクララである。それぞれの名前は紛れもなく、深い感情で結ばれていたが、ついに結婚はしなかったヨハネス・ブラームスとクララ・シューマンに起因している。

チョン・キョンファはことさら温かく滋味深いブラームスの音楽がお気に入りである。

大植英次×「英雄の生涯」

特別な場所で繰り広げる“凄演”
伝統の十八番で圧倒する！

その起伏に富んだ楽想は
大植の持ち味に相応しい

圧倒的な迫力で迫る、ベートーヴェン「交響曲第7番」とリヒャルト・シュトラウス「英雄の生涯」。これまで体験したことのない、感動がお約束できよう。

昨年3月には「英雄」×「アルプス交響曲」、今年1月にはR・コルサコフ「シエラザード」×ストラヴィンスキー「春の祭典」と、凄演を連発、聴衆を熱狂させてきた大植英次と大阪フィルハーモニー交響楽団。この「黄金タッグ」が再び帰ってくる。

米ミネソタ管やハノーファー北ドイツ放送フィルなど、世界各地の第一線オーケストラのシェフを歴任してきた大植。2005年には、日本人として初めてバイロイト音楽祭で指揮して話題に。2003年から8年間の大阪フィル音楽監督時代には、前任者の巨匠・朝比奈隆が築上げたサウンドを尊重する一方、持ち前の瑞々しく躍動感あふれる指揮ぶりとダイナミックな音楽創りで、名門楽

団にスタイリッシュな機動性をもたらした。

また、街角で気軽に音楽演奏に触れられるイベント「大阪クラシック」もプロデュースし、オーケストラを、一般の人々に親しみある存在として、印象付けることにも成功。2012年に音楽監督を退任した後も、桂冠指揮者として大阪フィルと良好な関係を保ち続け、折に触れて共演。2度にわたるザ・シンフォニーホールでの「凄演」も、そんな気心の知れた両者だからこそ、成し得たと言えるよう。

そして、大植にとって、ザ・シンフォニーホールは、まさに「特別な場所」だ。「ただ、音が良いだけでなく、サイズと形が素晴らしい。たとえ指揮をしていて背を向けていても、お客様の表情や息遣いが分かります」と大植。「私にとって、ザ・シンフォニーホールと言えば、朝比奈先生。先生なら何を演奏されるだろうか、というようなことも考える」とも。

今回、そんな大植がイメージネーションを結実させたのが、R・シュトラウスにとって交響詩の「集大成」である「英雄の生涯」。起伏に富んだ楽想は、大植の持ち味に相応しい。シリーズ化を見越して、「気が付いたら、凄い歴史が始まっていた、となれば面白い」と語っ

ていた名匠。「昨年に取り上げた、ベートーヴェン「英雄」と呼応させる意図もあるのかも」。

そして、これに先立ち、朝比奈との名演で一世を風靡した大阪フィルにとって、まさに「伝統の十八番」であり、2020年に生誕250年を迎えるベートーヴェンの交響曲から、第7番を披露。鮮烈なリズム遣いで、ワーグナーをして「舞踊の神格化」と絶賛せしめた傑作も、また、ダイナミックな大植の音楽創りにマッチしている。名匠は果たして、2つの作品をどう共鳴させてゆくのか。かつて大阪フィルのキャッチフレーズにあった「エイジ・オブ・エイジ（英次の時代）」がいまだ進行中なのだと、実感できるだろう。

（文 笹田和人）

発売中

【指揮】大植英次

【管弦楽】大阪フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェン：交響曲 第7番 イ長調 op.92

R.シュトラウス：交響詩「英雄の生涯」op.40, TrV 190

2020.1/25(土) 3:00PM

S 6,500円 A 5,500円 B 4,500円（税別）

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問合せ下さい。

【お問合せ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール／

公益社団法人大阪フィルハーモニー協会

elegy

エレジー

横坂 源 GENYOKOSAKA

チェロ・リサイタル

満を持してリサイタル決定!
「今の自分のすべてを
ステージで出す」



撮影:鈴木久美子

作曲家のエネルギーを会場に
いる皆様と分かち合いたい

横坂源は、最も多忙なチェロ奏者のひとりだ。横坂がチェロを始めたのは4歳の頃。子どもの頃の夢は、マ이스キーになりたい、だったという。

「見た目も神様がチェロを弾いているようで、本当に神様がいるのではないかと感じていました」

その夢に向けて、小学校高学年から毛利伯郎氏のレッスンを受けるために、毎週新潟から東京まで往復する生活が始まる。練習時間も長時間なのではと思いきや――

「小さな頃は、父も教えてくれたのですが、仕事があるので、1日のうち1時間だけ。(その練習時間は)高校まで続きました」

13歳でプロのオーケストラと初共演。高校入学直前には、小澤征爾とサントリーホールで共演を果たす。

「2階の一番向こうのお客様まで音を届けてごらん」と言われたことを今でも忘れられません」

その後、高校時代にコンサートで聴いたジャン・ギアン・ケラスに感動し、何度かレッスンを受けた。のちに本人から「ドイツへ来ますか?」と声を掛けられ、渡独を決意。そして2010年にはミュンヘン国際コンクールで第2位を受賞し、世界中から注目を集める。

「大学在学中、シュトゥットガルト放送交響楽団のアカデミーに在籍していました。ミュンヘンのコンクールで賞をいただいたのをきっかけに、オーケストラから『首席で』と声がかかり、期間限定でそのポストに就いていました」

帰国後はリサイタルをはじめ、オーケストラとの共演、室内楽コンサートなど、幅広く活躍しているが、近年は「3大協奏曲」に連続で出演するなど、ザ・シンフォニーホールで演奏する機会も多い。

「弦楽器にとって響きがとても良いです。精神的にも肉体的にも楽ですし、大好きです。大阪入りすると、夜にランニングをしています。リハーサルが終わった後に30分から1時間くらい走る。走らずに翌日を迎えると神経質になり、細かいことを気にしてしまうので、良い状態でコンサートに臨めないのです」

満を持して決定したザ・シンフォニーホールでのリサイタル。

「プログラム前半は、玉手箱のような色々な性格の小品で、後半はラフマニノフの《チェロ・ソナタ》です。彼は《交響曲第1番》が酷評されて精神的な病にかかり、そこから復活していくなか、有名な《ピアノ協奏曲第2番》で称賛されました。その後書かれたのが《チェロ・ソナタ》。暗闇を経て光を感じ

じている時期に書かれた曲です。フォーレの《エレジー》は亡くなった方への音楽。この2曲がプログラムの軸になっています」

最後にこのリサイタルへの意気込みを語ってくれた。

「シンフォニーホールは、ステータスや客席の垣根を越え、音楽、奏者、そしてお客様との心のやりとりをダイレクトに体感することのできる素晴らしいホールです。信頼するピアニストの萩原麻未さんと共に、喜びに溢れ、時に切実なメッセージを発する作曲家のエネルギーを会場にいらつしやる皆様と分かち合うことができた幸いです。お会いできる日を心待ちにしています」

(文 道下京子)

[チェロ]横坂 源 [ピアノ]萩原麻未

J.S.バッハ:プレリュード ~無伴奏チェロ組曲 第1番より/カサド:親愛なる言葉/フォーレ:エレジー op.24/夢のあとに/ファリャ:火祭りの踊り/シューマン:アダージョとアレグロ op.70/ラフマニノフ:ヴォカリーズ op.34-14/チェロ・ソナタ ト短調 op.19 ほか

2020.3/14(土) 7:00PM

全席指定 3,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/19(木) 一般発売:10/5(土)

外村理紗

R i s a H o k a m u r a

ヴァイオリン・リサイタル

演奏を聴いてくださった方々が
元気になれるように

艶やかな音色と溢れる歌心、
瑞々しい感性。まだ現役高校生
ながら、心を揺らす音楽を紡ぎ出
す、ヴァイオリニストの外村理紗。
昨秋のインディアナポリス国際コ
ンクールで2位入賞を果たすな
ど、実績を重ねる若手実力派が、
ザ・シンフォニーホールに初登場
し、2つの名ソナタを軸とした、名
曲の花束を届けてくれる。

「作品の魅力を最大限にお届け
できる演奏会にしたいです。意識
的に個性の異なる曲を選んだの
で、それぞれの良さや物語を、感
じ取って頂けると嬉しいです」

柱の一つには、フランクのソナ
タ。「次にリサイタルの機会を頂い
たら『絶対に弾きたい』と考えてい
た」と言う。そして、ベートーヴェ
ンのソナタは、第7番をセレクト。

「第7番は個人的にはとても気
に入っているのですが、一般的に
は余り知られていません。ぜひ、
皆様に聴いて頂きたいです」

さらに、ステージ前半では、6つ
の小品を聴かせる。

「思い入れある、大好きな曲ば
かり。小品はアンコールで弾かれ
がちですが、実は、名曲で溢れてい
ます」

今回のパートナーは、初共演と
なるピアノの江口玲。「インディア

Interview

今から注目しておきたいスーパースター高校生。
ザ・シンフォニーホールに初登場！



ナポリスのコンクールの時、公式
伴奏者でいらっしやっていた、温
かくお声がけ下さいました。こう
して一緒にできるのは、嬉しくて
光栄。何より、とても楽しみです」
ヴァイオリンを始めたのは、3
歳。「ヴァイオリニストの母が、自
宅でのレッスン中、その音に合わ
せ、箱と鉛筆を持つてずっと弾き
真似をしていたとか。みかねた祖
母が、『楽器を買ってあげたら？』
と言ってくれたのが始まりです」

楽器に寄り添うように、弾く姿
が印象的。「私には少し大きい楽
器ですが、どんな姿勢や弓の通り
が一番良い音を引き出せるのか、
試行錯誤の日々です」。そして、音
楽を「自然や人の心情を表す」存
在と捉えているという。

「例えば、自然も、穏やかで小鳥
が囀る時もあれば、雷が鳴り、大
嵐が来ることも。そんな情景や
言葉にできない機微まで表現で

きるはず。でも、それを表現する
には、楽譜だけでなく、作曲家が
何を表現したかったのかを知らな
ければいけない。作曲の経緯や時
代性、作曲家個人についてよく学
び、作品を好きになるのが、大切
だと思います」
憧れの存在は「ダヴィッド・オイ
ストラフと、学んでいる先生方」と
言う外村。「常に感謝の気持ち
を忘れず、思いやりある温かい人
になりたい、というのが、幼い頃か
らの夢でした。その上で、私の演奏
を聴いて下さった方々が、少しで
も元気になったり、癒されたり、勇
気が出せたりできるヴァイオリン
ストになれば」と語った。

(文 笹田和人)

[ヴァイオリン] 外村理紗 [ピアノ] 江口 玲

クライスラー: ブニャーニの様式によるプレリュードとアレグロ / 中国の太鼓
op.3 / チャイコフスキー: ワルツ・スケルツォ op.34 / 憂鬱なセレナード op.26
/ サラサーテ: スペイン舞曲集 op.23 第2番「サバテアード」/ ツィゴイネルワイ
ゼン op.20 / ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ第7番 ハ短調 op.30-2 / フ
ランク: ヴァイオリン・ソナタ イ長調 FWV8

2020.2/21(金) 7:00PM

全席指定 3,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

【お問合せ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/19(木) 一般発売: 10/5(土)

バッハ国際コンクール優勝 富田一樹 バッハ名曲 決定版

Interview

Kazuki Tomita Interview Vol.1

バッハに導かれるように生まれた、オルガニストへの道

オルガン: 富田一樹

近所の教会のオルガンで練習しながら、オルガンの作曲にも興味を持ち、ハーモニーや対位法などを勉強した。気が付くと、テレビなどで流れてくる音に対して、『これは、この和音だな』と分析してしまふほどに。『子どもがブリキのおもちゃで遊んでいて、その仕組みを知りたくてパカッと開けて調べると面白い。そういう感じと似ていると思います』。

「荒々しかったり、包まれるようだったたり、多彩な音色を持っているところに興味を持ちました。もう一つは、たつぷりと響くハーモニー。『この楽器は面白いな』と思いました」

初優勝を果たした「富田一樹さん。オルガンに魅了され、オルガニストとして活躍するまでの歩みを伺った。連載でお届けする。」

運命の出会いには、中学1年生の頃に聞いたバッハのCDに入っていたオルガン曲だった。



「10歳ぐらいのときに、立て続けに両親を亡くし、1回目の奥さんとは死別して、子どもも半分は幼児で亡くなっています。現代の人よりはずっと、死に近い感覚を持っている。人間関係で色んなト

「そんな研究肌の性格は、高校生になり、さらに開花する。ゲーム好きでゲーム音楽に興味を持ち、コンピューターで音楽を作るDTM(デスクトップミュージック)に没頭。『コンピューターの表現力の幅に魅力を感じました。テンポ感など、コンピューターの正確さを自分に移植できないかと考えてオルガンを練習していくと、とても細かいところまで表現できるようになりました』。

こうして、300年以上の時を経てバッハに導かれるように、自然とオルガニストへの一本道が生まれていった。

バッハの誕生日である、来年3月21日に、『バッハ名曲決定版』が、ザ・シンフォニーホールで開催される。本公演で演奏する富田に、大作曲家の人物像を尋ねてみた。

「そこまで拘らなくても、と思うのですが、『いや、そこを拘るんや』という頑固さが楽譜からは見えません」と語る。

「バッハは精神を研ぎ澄まし、楽譜に何を込めたかったのだろうか。」

ラブルを抱えていましたし、生き方に対して答えを見つけたことが重要だった。おそらく聖書を何回も、深く深く、読んでいったのではないのでしょうか。そこから出てくる音楽は違いますよね」

筆者はバッハの音楽を聴いたとき、心の中が浄化されるような心地になったことを思い出した。『どこまでもクリスチャンとして神の御言葉を表現しようとしていたと思います。オルガニストとして、ハーモニーをしつかり大切に演奏したいと思っています』。

今回は、富田がハーモニーの腕を磨き、経験を積んだドイツ留学中について語っていただく。

(取材: 文 金子真由)

[オルガン] 富田一樹

オール バッハ・プログラム: 前奏曲とフーガ イ短調 BWV543/おお人よ、汝の罪の大いなるを嘆け BWV622/「マルチェロのアダージョ」(オーボエ協奏曲より第2楽章) BWV974-2/前奏曲とフーガ ハ長調 BWV531/トリオ 二短調 BWV583/主よ、人の望みの喜びよ BWV147/パッサカリア ハ短調 BWV582

2020.3/21(土) 7:00PM

全席指定 2,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/19(木) 一般発売: 10/5(土)

プロジェクション・マッピング×
パイプオルガン

GIFT



～クリスマスキャロル2019～

新シリーズ遂に誕生!

煌びやかな光と多彩な音色を楽しむイヴの夜!



[オルガン]大木麻理

ジョーンズ:「もろびとこぞりて」による変奏曲★/J.S.バッハ:主よ、人の望みの喜びよ BWV147/J.S.バッハ:C.グノー:アヴェ・マリア/チャイコフスキー:「くるみ割り人形」より★「金平糖の精の踊り」「花のワルツ」/フランスのキャロルー荒野の果てに★/クリスマスメドレー★ 神の御子はーホワイトクリスマスー赤鼻のトナカイーサンタクロースがやって来た/ヴィドール:「オルガン交響曲 第5番」より「トッカータ」

★=プロジェクション・マッピング付き

2019.12/24(火) 7:00PM

全席指定 2,500円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/19(木) 一般発売:10/5(土)

クリスマス・イヴの夜、ザ・シンフォニーホールで興奮と感動を呼ぶプロジェクション・マッピング×オルガンの新企画が誕生! 子どもから大人まで一緒になって楽しめるスペシャルなコンサートだ。

オルガニストの大木麻理が、ジョーンズ「もろびとこぞりて」による変奏曲、「チャイコフスキー」「くるみ割り人形」より、金平糖の精の踊り、さらにはクリスマスメドレーなどを演奏。心弾むようなクリスマスソングに合わせて、ザ・シンフォニーホールだからこそ実現できる華やかなプロジェクション・マッピングが登場。オルガンの音色に誘われ、まるでサンタクロースやトナカイがホールにやって来るように、客席の目の前に現れ、イヴの夜を楽しく彩る。

サンタクロースが運んできたプレゼントの箱を開けるように、ワクワク、ドキドキのコンサートを、是非お楽しみください。

(文 金子真由)



オルガン...大木麻理

©Mari Kusaka



ザ・シンフォニーホール
クリスマス
オルガンコンサート
2019

一年に一度、美しく荘厳な音色が
あなたの心をホッと温めてくれる。

発売中

[オルガン]大木麻理

ヘンデル:オラトリオ「メサイア」 HWV56より ハレルヤ/J.S.バッハ:グノー:アヴェ・マリア/J.S.バッハ:コラール「主よ、人の望みの喜びよ」 BWV147/トッカータとフーガ ニ短調 BWV565/レーガー:クリスマスの夢(きよしこの夜)/クリスマスメドレー:神の御子は今宵しもーホワイト・クリスマスー赤鼻のトナカイーサンタクロースがやって来た/C.M.ヴィドール:オルガン交響曲第5番 へ短調 op.42-1より トッカータ
※休憩なし。約60分間のコンサートです。

2019.12/14(土) 7:00PM

全席指定 2,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター

06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

ザ・シンフォニーホールの3732本のパイプから豊かなオルガンのハーモニーが響き渡ると、教会のステンドグラスの煌めきのように、美しく荘厳な音色に包まれる。

ザ・シンフォニーホールでは、12月になると大きなクリスマスツリーが飾られ、毎年完売を記録する大好評のクリスマスオルガンコンサートが開催される。今年は、第3回ブクステフーデ国際オルガンコンクールで日本人初の優勝を受賞した大木麻理が登場する。

本公演は、「お客様へのクリスマスプレゼントになれば」とセレクトした作品が並び、「ホワイト・クリスマス」「サンタクロースがやってきた」など、誰もがこの時期に口ずさんでしまうメロディーやオルガンの魅力にたっぴりと浸ることのできるクリスマスの名曲が集められた。

大木麻理が演奏するオルガンの音色は、モミの木に灯りをともすように温かな心地にさせてくれるだろう。

(文 金子真由)

The Symphony Hall Special Selection

特選！春の訪れを華やかに彩る、極上のヴァイオリン、チェロのリサイタル

2/29
(Sat)

川井郁子 シンフォニック コンサート -情熱-

その燃え上がる感情に酔いしれる——
一期一会の創意あふれる名演に期待！

[ヴァイオリン] 川井郁子

川井郁子：流浪の女／ブラームス：ハンガリー舞曲 第5番／マルグリット・モノー：愛の讃歌／アンヘル・カブラル：群衆
／ファリヤ：「恋は魔術師」より 火祭りの踊り／ミンクス：「ドン・キホーテ」より ジブシーダンス／ダイアン・ウォーレン：I
don't want to miss a thing (「アルマゲドン」のテーマ曲)／ヴェルディ：歌劇「アイーダ」より 凱行進行曲 (ほか)

2020.2/29(土) 2:00PM

S 5,000円 A 4,000円 (税別) ※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] アイケー・オフィス／ザ・シンフォニーホール

先行予約：9/19(木) 一般発売：10/5(土)

ヴァイオリン：川井郁子



毎年2月にバレンタインコンサートを行うなど、ザ・シンフォニーホールの音楽ファンに大人気の才色兼備ヴァイオリニスト・川井郁子が、この季節に新たなテーマ「情熱」で選曲した注目の公演を行う！文学や美術などの芸術全般に言えることだが、この燃え上がる感情は音楽の世界においても多くの傑作を生み出し、新境地を拓く原動力であり続けてきた。

予定演目は、ブラームス「ハンガリー舞曲第5番」やビゼー「カルメン」、「ハバネラ」と「闘牛士の歌」のような古典から、モノー「愛の讃歌」、エアロスミスの熱唱でおなじみの映画アルマゲドンのテーマ曲「ミス・ア・シング」といった現代曲。さらに作曲や編曲も積極的な手がける川井の自作曲で、2017年に発表したアルバム「LUNA」に収録されている「流浪の女」まで。アルバムには、男女の情熱的な愛を題材に、照らされる光によって姿を変える月を描いたという意欲作も収録されており、今年8月のライブ・シンフォニックコンサートでは新編曲も披露した。今回も一期一会の創意あふれる名演奏が期待できそう。

「情熱の音楽史」を辿ることができる、貴重で贅沢な午後のひととき。春間近だがまだまだ寒い季節に、誠実な音楽性と情熱的な歌心を兼ね備えた川井のヴァイオリンが心も体も芯から温めてくれるホットな公演を是非！！

(文 渡辺謙太郎)

2/29
(Sat)

荒庸子 チェロ・リサイタル 2020 思い出がいっぱい 珠玉のシネマ名曲SELECTION VOL.6

どこまでも心地よく、映画の名シーンが蘇る！
選りすぐりのシネマ・ミュージック！

[チェロ] 荒庸子 [ピアノ] 山田武彦

メンケン：「アラジン」より「ホール・ニュー・ワールド」／マンシーニ：「ひまわり」より「愛のテーマ」／スタイナー：「風と共に去りぬ」より「タラのテーマ」／チャップリン：「ライムライト」より「エターナリー」／フェイン：「慕情」よりテーマ曲／ロータ：「ゴッド・ファーザー」より「愛のテーマ」／ハーウィッツ：「ラ・ラ・ランド」より「アナザー・デイ オブ サン」 (ほか)

2020.2/29(土) 7:00PM

S 3,000円 A 2,000円 プレミアムシート 4,000円 (税別) 《S席+スパークリングワイン1杯(開場・休憩時に2Fカフェにてご利用可能)》※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問い合わせください。

[お問合せ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 [主催] カノン・ミュージック／ザ・シンフォニーホール

先行予約：9/19(木) 一般発売：10/5(土)

チェロ：荒庸子



冷たい空気の中にも、春の気配を感じられる季節。浮き立つ心を後押しするかのよう、恒例となった「荒庸子チェロ・リサイタル 2020」が開催されます。珠玉のシネマ名曲は、もちろん荒のお気に入りばかり。「オー・ドリー・ヘプバーンが大好き」という荒さんにとって

欠かせない「昼下がりの情事」より「魅惑のワルツ」。同じく欠かせないのが、荒の尊敬する俳優、チャップリンの「ライムライト」《エターナリー》。道化師の切ない恋心を表したメロディが印象的です。

さらに強く美しい女性スカーレットを描いた「風と共に去りぬ」より「タラのテーマ」、戦争に引き裂かれる男女を描いた「ひまわり」、《慕情》。楽しいミュージカル作品からは「アラジン」より「ホール・ニュー・ワールド」や、「美女と野獣」より「ビューティー・アンド・ザ・ビースト」。愛を基調にしたコメディや、人間ドラマの世界が繰り広げられます。

セリフの代わりにメロディで感情の動きを表現し、観ている人の気持ちを高揚させる映画音楽を共に奏でるのは、これまでの共演で息もぴったりピアノリスト山田武彦さんです。

チェロは人間の声にもっとも近い楽器といわれます。ザ・シンフォニーホールに響く、艶やかで時に切ない情感たっぷりのチェロとピアノを堪能ください。

(文 國松珠実)

ザ・シンフォニーホールの冬の新企画
 ここでしか聴けない
 極上のアヴェ・マリア

Noel

クリスマス・リサイタル ソプラノ・小林沙羅

©NIPPON COLUMBIA

小林の典雅な声とともに
 クリスマス気分を味わえる

凛とした気品と清楚なたたずまい、天啓のごとく響く清らかな声、そして歌詞の細部のニュアンスを的確に表現する卓抜とした解釈。デビュー以来高い評価を受けてきた小林沙羅は、リサイタルやオペラの舞台で、引っ張りだこの人気ソプラノである。そんな小林が、ザ・シンフォニーホールで開催されるクリスマス・コンサート「Noel」(ノエル)に登場する。「ノエル」とはクリスマスを意味するが、一年でもっとも敬虔な気分になれるのが、この時期ではないだろうか。小林自身も子供の頃からクリスマスは家族とお菓子を焼くなど、大切な時間を過ごしたといい、またドイツで過ごした幼少期の数年には、本物の樅の木を使うなど、ヨーロッパの伝統的なクリスマスを体験したのが新鮮だったという。

今回は小林の典雅な声とともに、クリスマス気分をたっぷり味わえる曲が満載である。クラシッ

ク初心者でも、そして上級ファンでも楽しめる、とっておきのプログラムを用意してくれているのだ。すでに自身のディスクで披露しているヴァイロフ(カッチーニ)、バッハ(グノー、そしてシューベルトの《アヴェ・マリア》などの優美な調べは、透明感のある小林の美声を堪能するのにぴったりの演目である。さらにはモーツァルト《アヴェ・ベルム・コルプス》、クリスマスメドレー《荒野のはてに》《きよしこの夜》《もみの木》《ジングルベル》ほかも予定されている。唱歌《冬景色》《冬の夜》、山田耕筰《ベチカ》、中田喜直《雪の降る町を》など、日本語歌唱に長けた小林ならではの季節感あふれる選曲もとても楽しみである。共演のピアノは、録音やリサイタルで長らくタッグを組み、全幅の信頼を寄せている河野紘子。

ザ・シンフォニーホールには、2014年に新春名曲コンサートに出演するなど、これまでも好評を博してきた小林だが、現在は太

阪芸術大学准教授をつとめており、関西とも縁のある歌手である。「ザ・シンフォニーホールは、どんな言葉でも遠くまでよく響いてくれるので、とても歌いやすいんですよ」というから、ホールとの相性も良好である。

「今回のリサイタルは、思いつきクリスマス気分になれるプログラムですので、ご家族と、一人でも、恋人と一緒に、クリスマス気分を満喫していただけると嬉しいです」。

一年を振り返るにふさわしい12月、清らかな美声でしばし心静かに過ごしてみませんか？

(文 伊藤制子)

[ソプラノ]小林沙羅 [ピアノ]河野紘子

フランク:天使のパン/シューベルト:アヴェ・マリア/カッチーニ:アヴェ・マリア/J.S.バッハ=グノー:アヴェ・マリア/クリスマス・メドレー/フンパーディング:クリスマス/マルクス:マリアの歌/レーガー:マリアの子守歌/モーツァルト:アヴェ・ヴェルム・コルプス/賛美歌 アメイジング・グレイス/唱歌 冬の夜 ほか

2019.12/13(金) 7:00PM

全席指定 3,000円 (税別)

※ご購入時期により消費税額が変動しますので、お問合せ下さい。

[お問合せ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中



Interview

三浦一馬 (バンドネオン) 東京グランド・ソロイスト in 大阪

**三浦一馬率いる豪華ソリストたちがスゴい！
オーケストラ編成で魅せる贅沢サウンド**

バンドネオンの若き巨匠・三浦一馬が、2017年に結成した室内オーケストラ、東京グランド・ソロイスト(以下TGS)。彼らは毎年1回ペースで公演を行い、タンゴの革命児ピアソラの作品に新たな光をあてる活動を展開してきた。そしてこの度、大阪で初公演を開催。今回はメンバーの三浦、石田泰尚、山田武彦の3名に取材。様々な編成の公演を当ホールで行ってきた三浦は、今回の室内オーケストラの魅力について語る。

「ピアソラの強烈で瑞々しい音楽をさらに進化させたいという想いから生まれ、彼の洗練と土着的なパワフルさのいいところ取りをした演奏を追及してきました。メンバーは僕が長年共演して絶大な信頼を寄せている方ばかり。編成はキンテート(五重奏)をベースにしていますが、ピアソラがやっていた弦楽5部、ピアノ、パーカッション、ギター、バンドネオンの九重奏、コンフント9(ヌエベ)を展開させた感じです。昔からイメージしていたサウンドを満を持して実現できた、夢の楽団ですね」

弦を統率する石田は大阪での初公演をとて楽しみにしている。

「迫力があってバシッと決まる

サウンドも、見た目も本当にカッコいいので、毎回参加するのが楽しくて(笑)。それに三浦君たちとは、かねがね関西で公演をやった絶対盛り上がるだろうと話していたので、ようやく形になって嬉しいです」

今回もオール・ピアソラ・プログラムだが、山田に聴きどころを尋ねると実に楽しみな答えが返ってきた。

「これまで演奏してきたピアソラ・ザ・ベストと言えるプログラムです。作品の大半は三浦君のアレンジですが、作曲家・ピアニストの山中惇史さんによる編曲の『ル・グラン・タンゴ』なども含まれているので、編曲者によって異なるアレンジの妙も面白いと思います。編成もメンバーも実に豪華な楽団ですよ。ピアソラが生きていたらぜひ聴いてほしかったです」

インタビュはこの後も大いに盛り上がり、続きは次号へ。ザシンフォニーホールでの聴き手や音響への大賛辞、今回共演する注目の若手実力派チェリスト・横坂源や、地元関西から出演するメンバーに寄せる期待などをさらにお届けするのでお楽しみに!!

(取材&文 渡辺謙太郎)

発売中

[バンドネオン]三浦一馬 [ヴァイオリン]石田泰尚
[コントラバス]高橋洋太 [エレキギター]大坪純平
[ピアノ]山田武彦 [パーカッション]石川智
[ゲスト・チェロ]横坂 源 ほか

ピアソラ: フーガと神秘 / アディオス・ニーノ / プエノスアイレスの冬 / ビオレンタンゴ / 天使の死 / プエノスアイレスの夏 / 悪魔のロマンス / ウンデルタンゴ / ル・グラン・タンゴ / コルドバへのオマージュ / パルダリート

2019.12/21(土) 2:00PM

S 6,000円 A 5,000円 (税込)

[お問合せ]テレビマンユニオン音楽事業部 03-6418-8617

[主催]テレビマンユニオン / ザ・シンフォニーホール



上原 ひろみ

HIROMI UEHARA

JAPAN TOUR 2019 “SPECTRUM”

ジャズ・ピアニスト



日本が世界に誇るジャズ・ピアニスト、上原ひろみ。ジャズという肩書きだけで、大人っぽくてお洒落で、ムーディーな雰囲気演奏を想像していたら、度肝を抜かれる！。芸術は爆発だと言わんばかりに体を揺らして、時にはペダルを踏みつばなしにして肘で鍵盤を叩いたり、低音弦を手で押さえて金属音を響かせたり、全身全霊を込める。ピアノが持つあらゆる可能性を様々な方向から引き出してプレイしていくパフォーマーは、聴く者の魂を激しく揺さぶる。

超絶的なテクニックを使い、1音1音に繊細な表現力で人格を宿していきながらも、プレイ中は常に幸せそうな笑顔でピアノと戯れるように思いのままに即興し続ける。まるで鍵盤から音符を解き放っていくように愛情を込めて音を鳴らす型破りな奏法は、トリックキーで、アक्रロパティックで、どこまでも情熱的だ。

そのエネルギーなパフォーマンスで彼女は今までジャズ界の大御所チック・コリアから矢野顕子、DREAMSCOMETRYUE、さらにはタップダンサーの熊谷和徳、落語家の笑福亭鶴瓶といった音楽フィールド以外のアーティストからもラブコールを受け、共演を果たしてきた。

そんな上原は、早くからジャズの本場、アメリカを拠点に音楽活動を開始。制作から参加したアルバム『ザ・スタンリー・クラーク・トリオ feat. 上原ひろみ』でグラミー賞のベスト・コンテンポラリー・ジャズ・アルバムを受賞するという快挙を成し遂げる。その後は自身のアルバム『SPARK』で全米ビルボードの総合ジャズチャートに加え、トラディショナル・ジャズ部門でも1位を獲得。ジャズ・ピアニストとして名実ともに世界のトップへと上りつめていったのだ。

その上原が、色彩をテーマにしたニューアルバム『Spectrum』を発売。アルバムを携えて、

世界を圧倒する
パフォーマンス、
繊細かつ情熱的な音が、
どこまでも心を揺さぶる！

2年ぶりに開催する日本ツアーでは、ザ・シンフォニーホールでのステージに登場する。新作はピアノ・ソロ・アルバムのため、今回はバンドもオーケストラもない、上原とピアノ1台だけの公演となる。新作から、ガーシウウィン作曲「ラプソディ・イン・ブルー」にジョン・コルトレン「ブルー・トレイン」、「ザ・フー」の「ハイランド・ブルー・アイズ」という、青にちなんだジャズとロックの名曲を織り込んだ、20分を超える大曲「ラプソディ・イン・ヴァリアス・シエイズ・オブ・ブルー」の演奏にも期待したいところ。ザ・シンフォニーホールでどんな音を響かせてくれるのか——上原が誘う色彩の旅を楽しんでほしい。

(文 東條祥恵)

[ピアノ] 上原ひろみ

2019.11/24(日) 4:00PM

2019.12/1(日) 4:00PM

S 7,100円 A 6,070円 (各税込)

[お問合せ] キョードーインフォメーション 0570-200-888

[企画制作] ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

一般発売 9/28(土)

東京佼成ウインドオーケストラ 第4回大阪定期演奏会

名匠スダーン×吹奏楽シーンをリードするTKWO
黄金タッグのアンサンブルを味わえる好機!

[指揮]ユベール・スダーン [吹奏楽]東京佼成ウインドオーケストラ

オリヴァード・ティ:序曲「バラの謝肉祭」/ラヴェル(大橋晃一 編):組曲「クーブランの墓」/
真島俊夫:Mont Fuji(富士山)~北斎の版画に触発されて~/メンデルスゾーン:ハルモニ-
ムジークのための序曲/シュトラウス(大橋晃一 編):歌曲集より「献呈 Op.10-1」「明日の
朝 Op.27-4」「ツェツィリエ Op.27-2」/ラヴェル(大橋晃一 編):ボレロ

2019.11/22(金) 7:00PM

S 6,000円 A 4,500円 B 3,000円 (税込)

[お問合わせ]東京佼成ウインドオーケストラ事務局 03-5341-1155

[主催]佼成文化協会 東京佼成ウインドオーケストラ/ザ・シンフォニーホール

発売中



©Atsushi Yokota

©F.Fujimoto

2016年からスタートした名門・東京佼成ウインドオーケストラ(以下TKWO)の大阪定期演奏会も早いもので4回目。指揮者に藤岡幸夫、飯森範親、カーチン・ウオンと、いずれも実力派指揮者を迎えてきたが、今回は巨匠ユベール・スダーンが登場する。

彼はザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団の音楽監督を経て2004年に東京交響楽団の音楽監督に就任。14年に退任するまでに、モーツァルトからシェーンベルクに至る幅広いレパートリーと堅牢な音楽作りで楽団の実力と人気を劇的に高めたことで知られている。

今回指揮するのは、オリヴァード・ティの序曲「バラの謝肉祭」、真島俊夫「Mount Fuji」、メンデルスゾーン「ハルモニウムジークのための序曲」、ラヴェル「クーブランの墓」と「ボレロ」という、クラシックと吹奏楽オリジナルを織り交ぜた究極の名曲集。

スダーンは2018年にも東京佼成の東京定期に登場したが、持ち前の明晰なタクトで、TKWOの持ち味である繊細さとシャープさと爆発力を余すところなく引き出していた。今回も吹奏楽の古典、注目の新作、聴き慣れたクラシック名曲が並び、最高の素材を、スダーンとTKWOという、名シエフがどう料理するか、実に楽しみだ!!

(文 渡辺謙太郎)

クラシック×ジャズ2020 細川千尋プレイズ・ビル・エヴァンス ラヴェル・ジャズ

洗練されたセッションは見応え満点。
情熱と叙情性を備えた妙技を繰り広げる

[ジャズ・ピアノ]細川千尋 [ベース]井上陽介 [ドラム]セバスティアン・カプティン

バッハ=グノー:アヴェ・マリア/ジョセフ・コズマ:枯葉/ビル・エヴァンス:ワルツ・フォー・デビー/アレック
ス・ノース:ラブ・テーマ・フロム・スバルタカス/サド・ジョーンズ:"A Child Is Born"の主題による"ジャズ"
変奏曲/細川千尋:黎明-Reimei-/ラヴェルの主題による"ジャズ"狂詩曲 ほか

2020.2/8(土) 7:00PM

全席指定 4,000円 (税込)

[お問合わせ]テレビマンユニオン音楽事業部 03-6418-8617

[主催]テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/19(木) 一般発売:9/28(土)



ピアノ:細川千尋

ザ・シンフォニーホールの音楽ファ-ンにも近年おなじみになってきたに違いない、即興性豊かなジャズの世界。その功労者の一人が、過去にライ-ト・シンフォニックコンサートやジャズライブを行ってきた注目の若手実力派ピアニスト・細川千尋であることは誰もが認めるところだろう。そして来る2020年2月、情熱と叙情性を備えたあの妙技が再び大阪に帰ってくる!

今回は、9月18日にリリースされたメジャーデビューアルバム『MY VARIATIONS』で共演したメンバ-との出演となる。親密かつ洗練されたセッションを新たな形で堪能できそう。

細川というと、2013年に権威あるモントルー・ジャズ・フェスティバル・ソロ・ピアノ・コンペティション(スイス)で日本人女性初のファイナリストに選ばれたジャズの本流の印象が強い。だが実は彼女、大学までクラシックを本格的に学び、幼い頃から作曲も手がけてきた異色の経歴の持ち主なのだ。

そうした中で培われた音楽性は、普段クラシックを聴くことが多い当ホールのファンにもなじみやすいだろう。J.S.バッハやモーツァルトといったクラシック名曲のアレンジや、クロスオーバーな自作曲を得意とする選曲にも大きな期待と注目を寄せたい!

(文 渡辺謙太郎)

The Symphony Hall×和太鼓松村組 春祭 2020 -春光令月に舞う花-

今、日本で、世界で話題を呼んでいる和太鼓。

和太鼓松村組が繰り広げる魂揺さぶるハイパフォーマンス！

[出演]和太鼓松村組

2020.3/7(土) 7:30PM

全席指定 3,000円(税込)

[お問合せ]エス・ビー・エース 06-6204-0412

[主催]エス・ビー・エース/ザ・シンフォニーホール

先行予約:9/19(木) 一般発売:10/5(土)



2019年7月、ザ・シンフォニーホール×和太鼓松村組「夏祭り」で、熱いパフォーマンスを繰り広げ、おいでくださいました観客皆様の心をわし掴みにした舞台が来春またまたやって来ます！

和太鼓松村組は、ザ・シンフォニーホールにおいて毎年「春祭」と、「夏祭り」を催し、多くの方々から好評を博しています。年々お客様が増え、定着して参りました。樹齢約500年の大木をくり抜いて作られた太鼓から発する音がホールに響き渡り、その生命エネルギーが観客皆様の身体に染み渡る。その圧倒的な音圧に、魂を揺さぶられ、涙を流す方もいらっしゃると思います。

また、圧倒的な迫力とは対象に、マリンバやオカリナ・ケーナやチャランゴといった心の奥底に染み渡る優しさをも兼ね備えているのが、和太鼓松村組の魅力。そして、その様々な楽器を融合させた独自のアンサンブルとハイパフォーマンスを、ザ・シンフォニーホールの素晴らしい響きでお届けします。

2020年の「春祭」は、春光令月に舞う華と題し、力強くも優しさに溢れた舞台で、春の訪れを皆様と迎えたいと思います。

和太鼓松村組のハイクオリティの音楽性と、メンバーの鍛え抜かれた身体からほとばしる汗をお近くでご覧頂けますよ！令和の初桜をご一緒に楽しみませんか？

長富彩 ピアノ・リサイタル Vol.4 『リスト、超絶名曲選！』

リストの多彩さを満喫できるリサイタル
抜群の技巧と豊かな表現で魅了する

[ピアノ]長富彩

オール・リスト・プログラム: タランテラ/メフィスト・ワルツ第1番「村の居酒屋での踊り」/スペイン狂詩曲 S.254/ハンガリー狂詩曲/ピアノ・ソナタ ロ短調ほか

2020.1/11(土) 7:00PM

全席指定 3,000円(税込)

[お問合せ]テレビマンユニオン音楽事業部 03-6418-8617

[主催]テレビマンユニオン/ザ・シンフォニーホール

発売中



長富彩はピアニストとして近年着実に深化を遂げている。話題の新人が次々とデビューしていくピアノ界にあって、持ち前の高度なテクニクと豊かな表現力にしっかりと磨きをかけ、自身の評価を高めたところある貴重存在である。ザ・シンフォニーホールの聴衆は、そんな長富の歩みをこれまでの3回のリサイタルで確認してきたのではないだろうか。

好評を得てきた長富のリサイタル・シリーズは、4回目を迎える。第1回ベートーヴェン&リスト、第2回ラフマニノフ、そして第3回はショパンと毎回ピアニストの王道プログラムを組んできたが、今回はオール・リスト・プログラムである。洒落な「タランテラ」、有名な「メフィスト・ワルツ」第1番「村の居酒屋での踊り」、そして技巧的な「スペイン狂詩曲」、《ハンガリー狂詩曲》より第12番など、リストの醍醐味を味わえる選曲だが、《ピアノ・ソナタ ロ短調》には大いに注目である。

ソナタといっても一楽章構成で、まるでオーケストラ曲のような荘重さと内省的な表現が織り込まれた名作だけに、豊かな感性と冴えたテクニクに期待がかかる。

作品が書かれた当時の楽器についても熱心に研究している長富。リストの時代の空気を尊重しつつ、現代を生きる私たちの琴線の触れる演奏を聞かせてくれるにちがいない。

(文 伊藤制子)

大阪フィル×ザ・シンフォニーホール 〈名曲シリーズ〉ソワレ・シンフォニー Vol.14

開催迫る! 巨匠 大友直人と若き俊才
服部百音の共演に期待、注目度が高まる!

[指揮]大友直人 [ヴァイオリン]服部百音
[管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団

発売中

エルガー:弦楽セレナード ホ短調 op.20/シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 ニ短調 op.47/チャイコフスキー:3大バレエ音楽 ハイライト

2019.10/18(金) 7:00PM

A 5,000円 B 3,000円 (税込)

[お問合せ]大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催]公益社団法人大阪フィルハーモニー協会/ザ・シンフォニーホール

大阪フィルハーモニー交響楽団



ヴァイオリン 服部百音



指揮 大友直人

大阪フィルとザ・シンフォニーホールがおくる人気シリーズ「ソワレ・シンフォニー」に、世界が注目する天才ヴァイオリニスト・服部百音が登場する。祖父に作曲家の服部克久、父に同じく服部隆之をもつ今年20歳の彼女は、10歳のときリプシンスキ・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクールジュニア部門で史上最年少第1位と特別賞を受賞して以来、数々のコンクールでグランプリを獲得。

N響をはじめ内外の一流オーケストラと多数共演し、名教師ザ・ハール・ブロン譲りの堅牢な技巧と濃密かつ繊細な音色で、気迫に充ちた演奏を展開している。特に素晴らしいのは類まれな集中力と抜群の訴求力。その凛々しくも雄弁な音楽は聴く者を魅了してやまない。

今回の演目は、20世紀の当分野を代表するシベリウスのヴァイオリン協奏曲。濃厚で張り詰めた空気が漂う同曲は服部の持ち味に最適ゆえに、期待は限りなく大きい。

指揮は大友直人。まずはベテランの名匠と若き名手のコラボに熱視線が注がれる。そして大友得意の英国物エルガーの弦楽セレナードでは、持ち前のノブブルな抒情性、おなじみチャイコフスキーの「3大バレエ音楽ハイライト」では、格調を湛えた壮麗な音物語を堪能させてくれるに違いない。これは北の国の色彩感に溢れた、終始耳を離せない一夜だ。

(文 柴田克彦)

大阪交響楽団 0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ”Vol.16 『まるごと“くるみ割り人形”』クララのクリスマス

華麗なバレエと楽しい音楽をファミリーで! ワクワク&ドキドキの“くるみ割り人形”

[指揮]鈴木恵里奈 [歌のお兄さん・お姉さん]新井宗平、山本かずみ
[バレエ]午前の部:下川三和子(野間バレエ団)/午後の部:荒瀬結記子(野間バレエ団)

チャイコフスキー:バレエ音楽「くるみ割り人形」より/序曲★◆/行進曲◆/くるみ割り人形と二十日なすみの戦闘/冬の松林(クリスマスツリーの中で)◆/おんがくりズムあそびコーナー/ロシアの踊り(トレパーク)◆/花のワルツ★/金平糖の踊り◆/終幕のワルツとアポテオース◆ ★=プロジェクション・マッピングつき ◆=バレエつき

2019.12/24(火) 午前の部:11:00 / 午後の部:14:00 開演

S おとな 2,500円 A おとな 2,000円 B おとな 1,500円

S こども 1,500円 A こども 1,000円 B 小学生 800円 (税込)

※こども・0歳児から小学生 ※B席は未就学児不可

※乳幼児のお子様(お膝の上でも)も必ず座席券をご購入ください。 ※休憩なし、約60分間の公演です

[お問合せ]公益社団法人大阪交響楽団 072-226-5522

[主催]公益社団法人大阪交響楽団/ザ・シンフォニーホール

発売中



ザ・シンフォニーホールと、大阪交響楽団がタッグを組んでお届けする、大人気コンサート「0歳児からの“光と映像で楽しむオーケストラ”」。5年目を迎え、歌のお兄さん、お姉さんの軽快なリードで、コンサートはますます盛り上がり上がっています。

タイトルのとおり、0歳児からの赤ちゃんも一緒に楽しめるこのコンサート。「ホール入口にベビーカー置き場を設置」「授乳室・おむつ替え室を完備」「演奏中にお子様があぐらしても大丈夫」という3つの安心ポイントがあるので、ホールに入った瞬間から最後までコンサートを満喫することができそうです。

また、開場時にはロビーコンサートあり、楽器体験ありで、まるで音楽の遊園地! 小さなお子様と一緒に、周りに気兼ねなく(周りも小さなお子様ばかり!!)、お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんと三世代そろって楽しいひと時を過ごしてください。

クリスマス・イブの日に開催される今回は、60分まるごと「くるみ割り人形」。クリスマス・イブの夜に、主人公クララが見た夢をお届けします。ザ・シンフォニーホールが誇るプロジェクション・マッピングの映像、堺市を本拠地に活躍する野間バレエ団のバレリーナによる舞い、フルオーケストラの迫力満点の贅沢なサウンド! 目で見て、耳で聴いて、めいっばい、心で感じる、ことができる、素敵な1日をお楽しみください。

オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ 第127回定期演奏会 -海-

快演を続けるShionの定期演奏会
11月は“海が創る芸術”を音楽で表現する

[指揮]西村 友

[吹奏楽]オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ

長生 淳:トリトン/チェザリーニ:「ブルー・ホライズン」op.23b/イペール(西村 友 編曲):交響組曲「寄港地」/ドビュッシー(西村 友 編曲):交響詩「海」

2019.11/30(土) 2:00PM

S 5,000円 A 4,000円 B 3,000円(税込)

[お問合せ]Shionチケットセンター 0800-919-5508

[主催]公益社団法人大阪市音楽団

発売中

指揮 西村 友



オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ



©飯島 隆

創立から96年と日本で最も長い歴史と伝統を誇り、高い技巧と音楽性で快演を披露し続けている「オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ」(Shion)は、11月に開く第127回定期演奏会では「海」をテーマに据え、様々な色彩や表情、ハーモニーを擁する、4つの「音画」を楽しむ。

「大阪市音楽団」として長らく活動し、幅広いレパートリーを披露する一方、中高生を対象とした吹奏楽講習会での指導など、関西での音楽文化の向上と発展にも寄与してきたOSWO。2014年に大阪市の直営を離れ、翌年に現名称へ改称。関西地区以外での演奏機会も増え、いっそう精力的な活動を展開している。

今年から6回へと公演数を増やし、よりパワーアップしたザ・シンフォニーホールでの定期演奏会。今回は、卓越した名編曲家としても知られるShion正指揮者、西村友のタクトで臨む。

まずは、現代を生きる若者へのエールを、ギリシャ神話の海神の力強さに託した長生淳の「トリトン」を。続いて、現代スイスの大家チェザリーニが、海の生物の神秘を描いた「ブルー・ホライズン」を披露。そして、海軍士官だったイペールが、訪問先の印象を綴った交響組曲「寄港地」と、ドビュッシーが変幻自在に姿を変える波を描写した交響詩「海」は、共に西村の編曲で聴く。

(文 笹田和人)

オラトリオ「ヤマトタケル」

令和元年を記念してザ・シンフォニーホールに光臨。
蘇る日本神話の世界、250人の大合唱が実現する

[指揮]朝倉 洋 [合唱]令和記念合唱団 [管弦楽]令和記念管弦楽団

[胡弓]木場大輔 [和楽器]菅原清和/角野善郎/上杉清治/西川知広

[ヤマトタケル]二塚直紀 [オトタチバナ姫]畑田弘美 [大王]片桐直樹

[クマノ弟タケル]松澤政也 [ヤマト姫]児玉祐子 [タケヒコ]細川 勝 [語部]山中雅博

1部 天孫降臨・誕生・西征/2部 東征/3部 暗雲・昇天

2019.11/16(土) 6:00PM S 4,320円 A 3,240円(税込)

[お問合せ]オラトリオ「ヤマトタケル」特別演奏会実行委員会 072-954-7100

[主催]オラトリオ「ヤマトタケル」特別演奏会実行委員会

発売中



令和への改元を記念し、ヤマトタケルの生と死、愛と冒険が描かれた「古事記」の神話世界を独唱と合唱で歌い上げる、オラトリオ「ヤマトタケル」が上演される。

日本人のためのベートーヴェンの第九を、コラズグループ ポニー ジャックスの西脇久夫が発案し、三枝成彰が作曲を手がけ、なかにし礼が台本を書き、1989年に東京両国国技館で万人のコンサートとして初演されたこの作品。「天孫降臨」からヤマトタケルの「誕生」「西征」「東征」「暗雲」「昇天」までを約2時間以上に渡って歌い上げる大曲となっている。はるか彼方の太古を彷彿させ、大和魂を揺さぶられる美しい旋律だ。ヤマトタケルが息絶えて白鳥になるシーンで流れる澄んだ合唱を聴いていると、心から浄化されるような心地になる。

関西を代表するオペラ歌手たちがソリストを務め、ザ・シンフォニーホールの会場をヤマトタケルの神話の世界へと誘う。さらに、ユネスコの世界文化遺産となったヤマトタケルの伝説の地から合唱団が集結。ヤマトタケルを葬ったとされる白鳥陵古墳のある羽曳野市、堺市、藤井寺市に加え、大阪市や関東から、公募で集まった総勢250名の大合唱で歌い上げる。

令和元年を祝するに相応しい、日本人が元来持ち続けている美しい品性を振り返るひと時となるだろう。

(文 金子真由)

音楽を愛する団体が集い、夢を発信する 「ザ・シンフォニーホール」。

音楽を通し、聴く人に喜びを届けてくれる「関西大学応援団吹奏楽部」。5年に一度のステージに情熱を燃やす「大阪市立大学交響楽団」。12月に待望の公演を控える学生2団体からのメッセージをお届けします! 音楽に真摯に向き合う渾身の演奏にぜひご期待ください!

♪2019年9月からの開催予定公演♪

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科
第23回 定期演奏会



2019. 10/13(日)

同志社交響楽団
第91回定期演奏会



2019. 10/20(日)

関西大学応援団吹奏楽部
第58回定期演奏会



2019. 12/7(土)

関西学院
関西学院クリスマス at ザ・シンフォニーホール



2019. 12/17(火)

大阪市立大学交響楽団
創立90周年 第65回記念定期演奏会



2019. 12/25(水)

龍谷大学吹奏楽部
第46回定期演奏会



2019. 12/26(木)

京都大学交響楽団
第206回定期演奏会大阪公演



2020. 1/8(水)

関西シティフィルハーモニー交響楽団
第68回定期演奏会



2020. 1/26(日)

創立60周年記念
ヤマハ吹奏楽団特別公演 奏でる匠のオト



2020. 2/16(日)

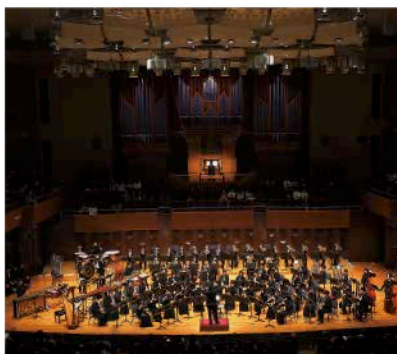
早稲田摂陵高等学校ウィンドバンド
第61回定期演奏会



2020. 2/22(土)

MESSAGE

関西大学応援団吹奏楽部



関西大学応援団吹奏楽部
第58回定期演奏会

【吹奏楽】関西大学応援団吹奏楽部
【指揮】音楽監督 伊勢敏之 ほか

A.リード：序曲「春の猟犬」
久石譲/森田一浩：スピリテッド・アウェイ
B.アッペルモント：ブリュッセル・レクイエム ほか

2019. 12/7(土) 7:00PM

S 1,500円 A 1,000円 当日券 1,500円

【ご予約・お問合せ】
関西大学応援団吹奏楽部 090-1581-3648

関西大学応援団吹奏楽部は、1954年に関西の大学で初めての吹奏楽部として創部され、「音楽を通して、皆様に喜んでいただき、それを自らの喜びとする。」というビジョンのもと、日々練習に励んでいます。今年度は28名の新生を迎え、総勢88名となりました。

私たちの活動形態は「シンフォニック」「ポップス」「チアリング」「マーチング」という大きく4つのスタイルに区分され、年2回の演奏会の開催や吹奏楽コンクールへの出場に加えて、応援行事や依頼演奏など、様々な活動に精力的に取り組んでいます。また、今年2月11日には、文京シビックホールにて開催された、第7回シンフォニックジャズ&ポップスコンテスト全国大会にて銀賞・準グランプリを頂きました。

定期演奏会第1部では、集大成として本年取り上げた名曲を再演いたします。第2部では、新旧の大作を取り上げます。この素晴らしいホールに響く、関西大学応援団吹奏楽部の音楽にご期待下さい。

たくさんのお客様に会えることを部員一同楽しみにしております。ぜひご来場くださいませ。

MESSAGE

大阪市立大学交響楽団



大阪市立大学交響楽団
創立90周年 第65回記念定期演奏会

【客演指揮】井村誠貴
【学生指揮】浮田泰成*
スメタナ：連作交響詩「我が祖国」全曲
ドヴォルザーク：スラブ舞曲 第1集 より 第1番*

2019. 12/25(水) 6:30PM

一般 1,000円

【ご予約・お問合せ】
大阪市立大学交響楽団 080-5339-9976

大阪市立大学交響楽団は、1929年に発足した学生オーケストラで、プロの指揮者をお招きして年に2回、6月と12月に演奏会を開催しています。約80人の音楽好きが大学内外から集まり、時には楽しく、時には厳しく真剣に音楽に向かい合っています。

2004年から5年に1度、ザ・シンフォニーホールにおいて開催している記念定期演奏会も、皆様にご好評いただき4回目を迎えることができました。大阪で活動する学生オーケストラの団員にとって、大阪が世界に誇るクラシック音楽の殿堂で演奏会を開催することは大きな夢です。数多くのプロオーケストラが演奏するステージに、学生の私たちが立つことはとても嬉しく、日々の練習に一段と

熱が入ります。今回は、「チェコ音楽の父」と呼ばれるスメタナの代表作である連作交響詩「我が祖国」を全曲演奏します。代々「熱い」と評されてきた市大オケの音楽。この伝統を受け継ぎつつ、今までご支援いただいた方々への感謝を込めて、団員一同が完全燃焼した演奏をお届けします。

今年のクリスマスは「ザ・シンフォニーホール」で、私たち市大オケの熱く燃えた演奏をお楽しみください。

多数のご来場をお待ちしております。